

詠む広場

毎日俳壇

小川 軽舟 選

西村 和子 選

井上 康明 選

片山由美子 選

亡き父の軍歴繰る手汗ばみぬ

秦野市 森田 博信

父の日は満州のこと聞きそびれ

津山市 森下 弘

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

父の日は満州のこと聞きそびれ

戦後81年「戦争・平和」特集

米川千嘉子 選

加藤 治郎 選

水原 紫苑 選

伊藤 一彦 選

「フジキカンス」電報は兄でなく姉の許嫁だった。母の顔見る 熊野市 鈴木 圭子

キノコ雲ゆっくり消えてゆく空に干されたままの水玉の傘 所沢市 里見 脩一

終戦の夜の祈りか父母は星に覗かれ抱きあつてゐた 東京 池崎富実夫

大国の丘に歪になる地球半熟たまごの危ふさ秘むる 伊丹市 岡本 信子

△評△美の息子も娘の婚約者もどちらもかけがえない存在だが、10歳位だった作者が見た母の表情を思う。兄は帰ったか。卓袱台にスポットライト一菜の夕餉を照らす

△評△キノコ雲はずっと空にあったのである。長い時間をかけて消えてゆくのだ。水玉の傘は人々を癒やす営為の象徴である。地球儀をふっと回して止まりたる指の先にも

さようなら 正義のように茂りゆく薔薇にアン

ひいおじいちゃんと呼ぶには若すぎる出征前

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

父の日は満州のこと聞きそびれ

八月や白木の箱に石ひとつ

戦艦の今も沈みて盆の海

<歌集>

新刊

<句集>

◇小澤實『小澤實前期句集集成』 現代を代表する作家の一人でもある著者の3句集『砧』『立像』『瞬間』に句文集『礼のかたち』を収録した俳句や文学を愛する人には近年最もうれしい書物。巻末の季語別索引も楽しく、著者の趣味をのぞいている気分になる。△まばたきをせずと蛸みつめあふ△蛸の恋かたみに足を網目より△蛸の脚に刻めり寸動△大蛸の眼つむりて眠るなり△とタコの句が4句もありどれも個性的な作品だ。△九十鉄斎九北斎春の蛸△のような初期の傑作などは今も光り輝いている。現代で最も豊かな遊び心を持った作家ではないだろうか。(ふらんす堂・3300円)

◇岸本尚毅『俳句一問一答』 タイトル通り俳句の手引書と言える一冊だが実に痛快。著者に答えられない俳句の問いはない。(KADO KAWA・1386円) (俳人・西村麒麟)

◇小池光インタビュー集 言葉とことばの出会い―小池光の戦後短歌史― 聞き手は寺井龍哉。12回のインタビューを通して小池光らしい歌の作り方が分かれると共にユーモアあふれる豊かな人物像も浮かび上がる。△ウインナワルツに合はせて踊る噴水を教師をばりしれ見えてをり△(本阿弥書店・3300円)

◇小泉史昭『時の雫』 身辺の事象をとらえて言葉にとどめる第3歌集。文語・旧仮名を用いることによって繊細な叙情性を創り出す。△心ゆくまでしたたかに街の景をけがらせ昼のとほり雨過△(六花書林・2640円)

◇標珠実『ホモサビエンスの卵』 翻訳者である著者の第1歌集。感覚をいかした詩的な飛躍に広がりがある。△こんなにもひとりだ夜がシロナガスクジラの骨格のごと降りくる△(角川書店・2860円) (歌人・中川和子)



こちらから
投稿できます

lan-haidan/

一作品を複数の
投稿は趣旨を変
えます。入選作は
「やデータベ
公開します。